



碧南ロータリークラブ週報

第2485回例会 平成22年1月20日(水)

● 会長 鈴木 並生 ● 幹事 長田 豊治 ● 会場監督 (SAA) 新美 真司

■ 例会日 毎週水曜日 12:30

■ 事務局 碧南商工会議所内

〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
E-mail: info@hekinan-rc.jp

■ 会報委員 岡本明弘・新美雅浩・大澤明敬・西脇博正



● 斉 唱

ロータリーソング「我等の生業」

● 本日のメニュー

碧南人参の日弁当 とんがり帽子

感謝状贈呈

第1回米山功労者 清澤聡之君

会長挨拶

皆さん、こんにちは。本日の例会主題は「私の履歴書」と云う題で、菅原さんと栗田さんに話を頂きます。宜しくお願い致します。

さて今日は、1月1日の朝刊を読んだ所感をお話させて頂きます。我が家は中日新聞と日経新聞をとっています。毎年元旦の朝は、新聞受けに入らないほど広告のたくさん入った新聞が届きます。新聞を配達する人は大変だなと思いながら読んでいたところ、少し興味を引く数字が載っていましたのでお話致します。それは日経新聞の社説「未来への責任」と云う題で、副題は、「繁栄と平和と地球環境を子や孫にも」の記事です。その中の一部を紹介します。財政や社会保障で若い世代ほど負担が重くなる。5年前の経済白書によれば、60歳代以上の人は生涯を通じて政府に支払う税金や社会保険料よりも政府から受け取る年金給付や医療保険の補助など行政サービスが4875万円多い。一方、20代は受取が支払いより1660万円少ない。両世代の差は約6500万円にもなる。増税や年金給付の削減などの改革をしなければ、100年後に生まれる日本人たちは、今の貨幣価値で2493兆円もの公的純負債を負う計算になる。(島沢諭秋田大準教授の試算) 負担をないがしろにして財政支出を続け、その帳尻を国債発行で埋めてきたツケが、今の若い世代や未来の世代にずしりとのかかる。過去10年間は、経済や社会保障の基本的な問題を解決できなかった。今から10年後には65歳以上の人口が29.2%と3割に近づく。この10年間は勝負であろう。若い世代や将来世代の生活を守ることを真剣に考え、早く行動を起こすべきである。と日経の社説では言っています。

以上、元旦の日の社説を紹介して本日の挨拶と致します。

幹事報告

例会変更等は別紙幹事報告書の通りです。



鈴木並生会長



第1回米山功労者 清澤聡之君



長田豊治幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数72名(内出席免除者14名の内出席者9名)出席者55名	
出席対象者 55/66名	出席率 83.33%
欠席者17名(病欠者1名)	前々回修正出席率 96.88%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 石川 春久君 昨夜、テレビ放送で家族一同大変楽しく拝見させて頂きました。チョット老けた、48才黒田泰弘少年ジェット、見事な演技に感服。お宝同様、ギャラも280万円の価値は充分。是非、家族会での出演を期待しています。
- 植松 敏樹君 このたび、税理士個人の事務所から税理士法人として法人組織の事務所となりました。よろしくお祈りします。
- 角谷 信二君 良いことがありました。
- 清澤 聡之君 米山功労者で表彰を頂きました。
先日、清澤満之のことで新聞に載りました。
- 山中 寛紀君 チョット良いことがありました。
- 黒田 泰弘君 昨日のテレビ出演が、全国放送だと言う事をすっかり忘れて悪ノリしすぎました事を深く反省し、お詫び致します。その後、家内の携帯に、電話やメールがひっきりなしで大変でした。もはや、まともな人生を送る事は出来ませんので、このままで行きます。
- 菅原 優君 本日、卓話をさせていただきます。よろしくお願い致します。

卓 話

「私の履歴書」会員 菅原 優君

皆さんこんにちは。親睦活動委員会の菅原です。今日は、例会の貴重なお時間を頂き私の自己紹介と簡単な略歴をお話させていただきますので宜しくお願い致します。

私は、昭和31年3月24日に岩手県胆沢郡（現在の奥州市）で米農家の次男として生まれました。住所を言ってもほとんど解ってもらえないため「国宝の金色堂がある平泉の近く」とか「牛肉の握り寿司が食べられる前沢牛の取れる所」と説明すると、ほとんどの方に「良い所だね」と言って頂けるような自然豊かなところで18年間過ごしました。厳格で曲がったことが大嫌いな父親といつも優しく見守ってくれる森光子さん似の母親に見守られ、親子三代12人家族の中で次男坊・末っ子の特権を生かし自由奔放に生活してきました。小学校では早生まれということもありますが現在の体型からは想像も出来ないほど体が小さく、卒業までの6年間ずっと皆の先頭に立つため運動会などで整列したときの「前倅え」を一度もやった事ないというある意味貴重な体験を今でも覚えています。中学生になる頃には今の自分の原点でもある「車・メカ好き」が目覚めてきて、倉庫の中に眠っている古くなった農機具を引っ張り出してエンジン部分だけを取り出し運搬用台車に取り付け「ハンドメイドの車？」を作り農道を走らせ、ブレーキが付いていないため最後は田んぼに転落して全身泥だらけになったりと、近所でも有名な車好きの人間でした。中学校の部活では体が小さくてもやれるものかと探した結果、軟式テニス部に入部しボールを追いかけ毎日練習かと思いきや、部員数80名の運動部で最大の部のため一年生の時はとにかく走る・ラケットの素振り、二年生で玉拾い・声だし、三年生でやっとレギュラーか補欠という状態のなかで二年間はとにかく必死で先輩の厳しい指導についていきました。そんな時にクラス担任の萩原先生から「あなたたちは機関車だけ



らすぐにスピードは出ないけど底力は他のクラスの人には絶対に負けない。焦らずゆっくり着実に進みなさい」といつも言い聞かされていたのが今の自分の生き方の基本となっているように思います。その後、高校に進学するわけですが昭和49年当時は公立の工業高校が一番人気で大変競争率が高く工業高校を希望していた私でしたが、父親から「公立に合格できなかつたらといって私立に行かせるほど余裕は無い。不合格なら就職しろ！」と言われ、進路指導の先生と相談したところ今の成績では工業高校の合格確率は50%と言われましたが、それでも工業高校を受験したいと食い下がりましたが願書提出の締切日が近づくに従い父親の言葉が重く押し掛かり毎日悩んでいたとき母親からの「高校さ行げ、ムダになんねがら（まず高校に行きなさい、三年間は絶対ムダにならないから）」の一言に後押しされ県立水沢高校（普通課）受験を決意し高校進学することができました。テニス・サッカー部と掛け持ちのクラブ活動・彼女・勉強と高校生活を楽しみながらも、いつも卒業後の進路をどうしようかと考えていたとき私の将来を決定付ける大きなトリガーがありました。トヨタ自動車の『未来から来た車 セリカ』が発表されたのです。私の「車好き」が目を覚ました瞬間でした。この車は自分が乗るために出てきたのだと勝手に思い込みセリカを手に入れるためにはトヨタ自動車に入社するしかない……と、昭和49年トヨタ自動車(株)（当時トヨタ自動車工業(株)）に入社、上郷工場に配属されトヨタのドル箱と言われていたカロラーのトランスミッション内臓物（ギヤ・シャフト類）の研磨加工に従事し上司先輩から寸法公差30ミクロンの世界を叩き込まれた4年間でした。昭和53年5月、当社初のFFトランスミッションラインの立上げ要員として衣浦工場に異動してきて港本町にある衣浦寮（独身寮）に住み碧南市民の仲間入りをしました。その年の12月16日に結婚し今年で32年目になります。妻の恵子は宮崎県の出身で昭和51年に当社に入社し結婚するまで豊田市にある高岡工場で技術員室事務職をしていました。結婚の翌年、54年12月に長男誕生、56年6月には長女が誕生し日進保育園・日進小学校・東中学校に通わせて頂き、長男は碧南工業高校へ長女は碧南高校へそれぞれ進学し卒業後は2人とも当社に入社し「菅原家はトヨタ一家」と社内誌に載せて頂いた事も有ります。略歴に話を戻しますと、2004年からは工場の製造現場を離れ海外支援グループに所属し、海外研修生の受入教育などを担当し、フィリピン・インド・ポーランド・アメリカのトレーニー（研修生）相手に和製英語と身振り手振りを駆使して現地現物での研修をおこないました。05年5月から海外事業体の自立（自律）化支援のため、アメリカのウエストヴァージニア州にあるTMMWV（トヨタロータリーファクトリーウエストヴァージニア）で当社として初めてのA/T（オートマチックトランスミッション）加工ラインの立上げ支援をローカル（現地の人）と協力し9ヶ月間の短期決戦でライン立上げを行いました。06年4月で支援が完了してから4年経った今でも、計画遅れが発生しローカルの製造課長と深夜までマイルストーンの見直しをしたこと、仕事が終わった後にローカルメンバーからQC・TPS・KAIZENを教えてほしいと頼まれ通訳さんをお願いして勉強会を開いたり、みんなで苦労し楽しんだ事を今でも鮮明に記憶しています。生まれて初めての海外で仕事をして世界の人と触れ合う中で自分が学んだ事があります。それは、「コミュニケーションと信頼」です。初物に弱い私にとってこの海外支援をきっかけにコミュニケーションスキルが上がった事がいちばん成長した部分であったと思います。WV州は非常に健全な町で休日に遊ぶとしたらゴルフくらいしかなく毎週のようにゴルフをしていたことが最近の趣味（下手ですが）になっています。今は6歳になった孫と一緒に練習場に行くのを楽しみにしつつ、「大きくなったら遠くみたいになる」と言っている孫の言葉に期待をしつつスポンサーとしてバックアップしています。

取り留めのない話をしましたが、私は去年の人事異動で製造現場から工務部に業務内容が変わり地域担当として多くの皆様とお付き合いさせて頂き、また3月25日には碧南ロータリークラブに入会させて頂き10ヶ月が過ぎようとしています。まだまだ未熟な私ですが自分のモットーでもある「当たり前のことを当たり前のようにやる…誠意を持って」をしっかりと実行していきたいと考えておりますので、今後ともご指導宜しくお願い致します。

「私の履歴書」会員 栗田 政志君

栗田です。よろしくお願い致します。私は、皆様方と比べてこれといって白慢できるような経歴もございませんので今日は簡単な自己紹介と、一昨年あるセミナーでちょっと興味深い話がありました、その話をさせて頂きたいと思います。



私の「栗田」という苗字は、今私が住んでおります岡崎市にも美合町という所に多く、よく聞かれますが実は静岡市です。父親が終戦後、職業軍人であった為、陸上白衛隊豊川駐屯地へ赴任し豊川市へ移り住んだという訳です。私は、豊川市で生まれ小・中学校、そして高校も国府高校という豊川市内の学校へ通いました。中学時代は、陸上部で3種競技（100m、走り高跳び、砲丸投げの記録を得点に換算して競うもの）をやっており、高校時代は人よりも多少足が速かったため、それを活かしてサッカーをやっておりました。一入っ子であったため、比較的好きなことを自由にやれた時であったと思います。大学は、小さい頃よりよく静岡へ遊びに行ったりしていて静岡が大変好きで、そのまま迷わず静岡大学へ進学しました。下宿で4年間過ごした訳ですが、入学直後に父を病気で亡くし、どうしようかとも思いましたが事務局の勧めで授業料免除申請が通り、奨学金も頂くことが出来、大変幸運だったと思っております。大学の4年間は、文系で比較的時間に余裕があったためほとんど毎日アルバイトをしておりました。いろいろなアルバイトをやり今から思うと非常に良い体験が出来たと思います。中でも一番印象深いのが葬儀社でした。葬儀といっても登録してある私たちに声がかかるのは、いつも夜間の準備でしたが特に検死の時は大変でした。なにせ発作等で苦しんで亡くなったそのままの状態での検死をする訳ですから、硬直した遺体を布団に寝かせ、手を組ませるといのは大変困難でした。そのせいか今でも葬儀に参列する際、この人はどのような亡くなり方をしたのだろうかと思ってしまうことがあります。このような大学生活も昭和51年3月に卒業し岡崎信用金庫に就職した訳ですが、初めて頂いた給料が8万3千円ぐらいで、学生時代の収入が月に12~13万はありましたので非常にショックを受けたのを覚えております。最初の配属先が本店営業部で、研修期間中から「得意先係は花形である。」と叩き込まれ、自ら手を上げて得意先係となり大変な目に遭いました。以後、ずっと渉外畑で来る日も来る日も割り当てを背負って動き回り約34年を経て今日に至っております。

ここで、初めにお話させて頂いた、あるセミナーのことを話したいと思います。ある飲食チェーンを経営する社長さんが講師だったのですが、その冒頭の部分をここでそのまま再現してみます。OOさん、ちょっとお手伝い頂けますか。OOさんには、今日手伝いをお願い致しましたが、今から何をやるのかということは一切お話しておりません。では、どちらの手でも結構ですので、親指と人差し指に力を入れてぎゅっとくっつけて下さい。今から私がそれを離そうとしますので、どんなことがあっても、離さないように力を入れて下さい。2回やります。まず、はじめは「ありがとう。ありがとう。ありがとう。」と声を出しながらしっかり力を入れて下さい。始めます。では、次に先程よりももっと力を入れて離さないようにして下さい。今度は「もうダメだ。もうダメだ。もうダメだ。」と声を出しながら力を入れて下さい。始めます。今、一番驚いているのはOOさんご自身だと思います。セミナー当日は100人ほどの聴講者がみえましたが全員が隣の人とペアーを組み同じことをやり、反対の立場でもう一度やりました。すべてのペアーで同じ結果が出ました。この次の日、支店でも職員にやらせてみましたが、やはり同じ結果が出ました。もちろん男の人と女の人のペアーのように力の差がありすぎる場合は別でしょうけど。要は、人間はプラスの言葉を発した時には自然と体に力が入り、逆にマイナスの言葉を発した時には自然と体の力が抜けるということです。聞くところによりますと、大脳生理学の分野かと思ひ

ますが声を出すことによって前頭葉から中頭葉なのか後頭葉なのかは忘れましたが、そこに向けて指示が出るということのようです。考えてみますと重たい物を持ち上げる時に「せーの」とか声を出しますし、急に立ち上がった時などに腰に痛みを感じたことがある人などは、私もそうですが「よいしょ」と言って立ち上がったりします。このことから、わかるような気がします。また、会社等の新人教育研修で大声で叫ぶことを強要されたりする場面をテレビ等で見かけることがあります。まんざら意味のないことではないのだと思います。時間があれば、ここで皆様方にもやって頂くと良いのですが、一度職場等で朝礼の時などにやってみられたらどうでしょうか。ひとつの話題としても、また、組織の活性化の入り口の部分として捉えてもおもしろいのではないかと思います。

とりとめのない話となってしまいましたが、これで私の話を終わりたいと思います。ありがとうございました。

次回例会案内

平成22年2月3日（水）は西三河分区I. M. 全員登録のため、振替休会

平成22年2月6日（土）13:45～ 西三河分区I. M.

会場：ホテルグランドティアラ安城

平成22年2月10日（水）卓話「オペラ入門」海保りっこ氏